

# 課題情報シート

|         |                                                                                           |       |       |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| テ ー マ   | 一坪茶席の制作 ～銀茶会への挑戦 2019～                                                                    |       |       |
| 大 学 校   | 近畿職業能力開発大学校附属滋賀職業能力開発短期大学校                                                                |       |       |
| ホームページ  | <a href="http://www3.jeed.go.jp/shiga/college/">http://www3.jeed.go.jp/shiga/college/</a> |       |       |
| 電 話 番 号 | 0748-31-2254（学務援助課）                                                                       |       |       |
| 訓 練 課 程 | 専門課程                                                                                      | 訓 練 科 | 住居環境科 |
| 担当指導員   | 石井 真紀子                                                                                    |       |       |

## 開発（制作）年度・期間

2019（令和1） 年度 ・ 10 カ月

（内訳）企画：2 カ月、設計・模型製作：2 カ月、製作：4 カ月、調整：2 カ月

## 開発（制作）学生数

4 名

（内訳）模型製作：4 名、プレゼンテーション製作：2 名、茶席製作：4 名

## 習得した技能・技術

「銀茶会」の茶席作品募集に参加し入賞を目指し、一坪創作茶席を設計・施工し、この過程における課題の問題解決を行うことを目標としました。学生がデザイン案を基に一から制作を行い、検討・改良を繰り返し作品の質を高めていくプロセスを十分に習得し、また競技会への挑戦を通して一坪茶席「扇」の制作過程で学生自身グループ内での其々の役割を経験したと言えます。

## 開発（制作）のポイント

「銀茶会」の作品募集は、例年建築系の学校に通う各大学等の設計チームを広く募集しており、金賞作品は、東京の銀座で開催される「銀茶会」にて使用・展示されるため、ものづくり教育の成果を全国にPRできる良い機会となります。テーマ「綾」には、斜めに交わること、斜交する線によって表現される模様等の意味があり 3 案の茶席を応募しました。結果として入選することができなかったが「扇」については審査員の方から評価を頂くことができ、扇・扇子をモチーフとした茶席の外形に曲線を取り入れることで柔らかい優しい雰囲気表現しました。骨組みは、扇子の骨格となる扇型を形成するように放射方向へ立体的に計画しました。

## 訓練（指導）のポイント

本制作を通して、成果物に対する評価は重要であることを再認識しました。競技会において他大学との作品と並んで評価される機会は、具体的なテーマに対するコンセプトの立案から設計・施工に至る一連のプロセスの難しさを実感できたと言えます。また、制作した一坪茶席「扇」を茶道部のお茶会イベントで使用して頂いたことは、問題抽出・改善につながり最終案（完成形）へと物事の再検討の重要性を考えさせる経験になりました。

## 開発物の仕様

| 項 目         | 内 容                 |
|-------------|---------------------|
| サイズ (W×D×H) | 4000×4000×2200 [mm] |
| 重量          | 30 [kg]             |

## 使用機器

開発において使用した機器等 「機器名（メーカー・型番）」  
リップソー、自動かな盤、帯鋸盤、卓上丸のこ盤

# 一坪茶席の制作 ～銀茶会への挑戦 2019～

滋賀職業能力開発短期大学校  
住居環境科

日本の文化や伝統の一つである「茶室建築」をテーマに一坪茶席の設計・施工に取り組んだ。茶室の様式や茶の作法、流派について学び、「銀茶会」の創作茶席の競技会に参加した。そこで得た反省点をもとに計画案を再検討、実寸大茶席の制作に生かし設計、施工、工程管理を含む一連のプロセスを経験した。本制作では必要な知識や今後の糧となる貴重な経験、一からのモノづくりの難しさを実感することができた。

**Keywords**：一坪茶席，銀茶会，扇，扇子，茶道，茶室建築

## 1. はじめに

私たちは、総合制作実習の一環として「銀茶会」と呼ばれる創作茶席の競技会に参加した。8月9日に行われる一次審査に向けて茶席の計画・設計を行った。一次審査の結果から改良案を作成し、まず11月21日に行われる滋賀県立国際情報高等学校の茶道部のお茶会で使用して頂く実寸大茶席の制作を行った。実際に使用した方の感想やアンケートから改良を加え最終案を総合制作にまとめた。

## 2. 銀茶会への出展

### 2.1 「銀茶会」とは

毎年10月に日本建築学会が東京・銀座で開催するお茶会のことである。その際、展示・使用される創作茶席を建築・デザイン系専攻の学生を対象に募集が行われる競技会であり今年で18回目を迎える。第16回からテーマが設定されるようになり、今回は「綾(あや)」をテーマとした茶席が募集された。

### 2.2 一坪茶席の提案

まず昔から現在に至るまでの茶室建築の様式を整理し、それに伴うお茶の作法について調査した。また茶席の作品例や実寸大で施工可能な構造を意識し、コンセプトがしっかりと伝わるデザインを考え、日常とはかけ離れた特別なひと時を楽しむ内部空間を提案することとした。テーマ「綾」については一般的に斜めに交わること、斜交する線によって表現される模様等の意味がある。このテーマは、作品を考える上で各々様々な捉え方ができる。これらを踏まえて私たちはそれぞれ作品を提案することにし、検討や改良を繰り返し3案の茶席を提案した。そして条件内の縦4m×横4m×高さ2.4mの大きさ程度に計画し室内の一坪で御点前を行う設定とした。

### 2.3 模型・プレゼンボード製作

「銀茶会」の一次審査に向けて、提出物の1/10模型とA1サイズのプレゼンボードを制作した。プレゼンボードには、スケッチアップを用いたイメージ図で表現しコンセプト、デザイン、構造、施工方法についてわかりやすく配置した。模型については、実際に用いる材料に近いものを使用しイメージのしやすいものとした。(図1, 2, 3参照)。



図1「扇」

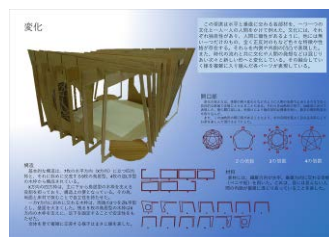


図2「変化」

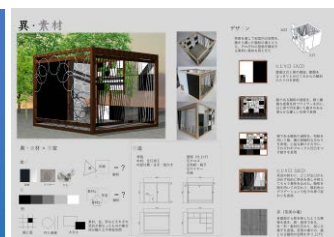
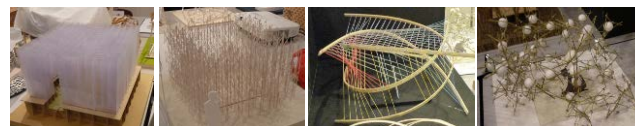


図3「異・素材」

### 2.4 「銀茶会」審査結果

2019年8月9日に東京都の建築博物館ギャラリーにて、12名の審査員による模型とプレゼンボードによる1次審査の公開審査が行われ、私たちは実際に審査の様子を見学した。今回は最多54作品が出展されており、その中から4作品が入選した(図4参照)。私たちが提案した3作品については、入選することができなかったが「扇」については審査員の方から評価を頂くことができた(図1参照)。

2019年10月6日に行われた二次審査で「竹編」(図4参照)が最優秀賞を受賞し、東京・銀座三越にて展示・使用された。



透綾 織折庵 哀糸豪竹 竹編

図4 2019年入選作品

### 2.5 「銀茶会」の総評

審査の様子を見学し様々な「綾」の解釈があり、どの作品もデザイン性が高く一般的な茶室とは異なるものばかりだった。そして、構造においても1/10模型では実現可能であるが実寸大茶席を制作するうえで、実現可能な構造であるかどうか考慮する重要性を実感した。

### 3. 実寸大茶席の制作

#### 3.1 制作の概要

「銀茶会」での競技会の結果から、審査員の方から評価を頂いた一作品（扇）をもとに改良を加え、11月に滋賀県立国際情報高等学校の茶道部で実際に使用して頂く茶席の制作を行った。

#### 3.2 一坪茶席「扇」について

本作品は扇・扇子をモチーフとし、茶室の外形に曲線を取り入れることで柔らかい優しい雰囲気表現した。骨組みは、扇子の骨格となる扇型を形成するように放射方向へ立体的に計画した。

#### 3.3 「扇」の改良

当初の案（図5参照）は、すべての土台、柱、梁の1フレームを放射方向に展開する設計だったが、中心部分に柱、梁が集中し納まらないことが判明したためフレームの数を半分に減らした。また材料が細くフレームの自立が難しく、改良案として外周側だけ減らした柱を建て梁同士が上部で交差するように一体化を図った（図6参照）。結果、施工において組立て・解体が容易になり構造的に安全・自立可能に設計できた。



図5 修正前

中心部に集中

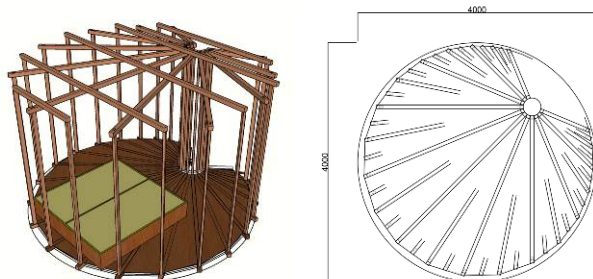


図6 修正後

平面図

#### 3.4 1/2 模型の制作

実寸大の茶席を制作するにあたり、1/2サイズの茶席の模型を制作し、作業手順や部材寸法、構造上安全であるかどうかの確認を行い、実寸大茶席の制作に向けて使用する部材の積算・発注を行った。

#### 3.5 実寸大茶席の施工

扇型となる茶席は4m×4mの正方形に納まる大きさである。土台、柱、梁の仕口はシンプルに二方胴付きのほぞ差し、土台、梁は60mm×60mm、柱は60mm×30mm、高さ2mの木材を使用した。木材については、強度に優れ、香り・見た目もよいヒノキを用いることにした（図7参照）。床については、合板を用い各ブロックに分けてパーツを作成した。またウォルナット色のオイルステインを塗布し落ち着いた印象に仕上げた。

#### 3.6 滋賀県立国際情報高等学校（茶道部）お茶会

2019年11月21日に滋賀県立国際情報高等学校のエントランスホールにて茶道部によるお茶会が開催された。それに先立ち、11月13日に実寸大茶席の組立てを行った。搬入・組立てには一時間程度で完了した。お茶会では教職員や生徒が多く参加しており写真を撮る様子などが見られた。また参加された方にはアンケートをとり要望・改良点やデザイン性・大きさ・高さ・茶室の用途について評価、回答して頂いた。



図7 組立完成の様子

#### 3.7 お茶会を終えて

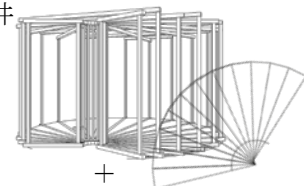
アンケートにおいて、教職員・学生合わせて27名の方々に回答して頂き、「出入口は低い方がいい」など実際に使用してみて天井が高すぎる、柱の間隔が広い、床が冷たい印象を受ける、室内感を感じないなど改良すべき点が発見できた。

#### 3.8 「扇」の完成

アンケートの結果、私たちは意見をもとに以下の2点①装飾的な部分加える②材質感を出すことを計画した。柱を増やし、一方の入り口の高さを1.5mに下げた。内部に天井材を配置し、20mmずつ段差をつけ扇子を広げたような勾配のある二重天井を制作した。また床には杉の無垢材を用いて木のぬくもり感を出し中央に一坪のお茶席を設置した。一坪の御点前を囲んで五、六人ゆっくりとお茶を楽しむスペースを計画した（図8参照）。



図8 二重天井



### 4. おわりに

本制作を通して、私たちが考えた案を自らの手で制作を行い、それを通して反省・改良を繰り返し作品の質を高めていく重要性を感じた。「銀茶会」への挑戦を通し、日常とのかけ離れたひと時を過ごすことのできる一坪茶席「扇」を制作することができた。